

II. 建築計画

4. 図書交流広場のコンセプト

○子どもから高齢者まで気軽に立ち寄れる生涯学習・交流・憩いの場

図書交流広場は子どもからお年寄りまですべての世代の人々が訪れやすいよう1階に配置します。また「子育てするなら境港」を実現するため、絵本や児童書はもちろん、境港市の文化・歴史を伝える本を展示します。また、児童書コーナーの隣に読み聞かせのコーナーを設け、子どもたちの豊かな心の成長を支えます。絵本を読むことと演じることの両方を体験することができる図書交流広場とホールの融合を生かした取り組みを行います。

○中学生・高校生の学習の場の提供

高校生までに地元で培った良質な体験が将来的な定住やUターンにつながります。境港市で中学生・高校生が気軽に訪れ、滞在できる場所をつくります。放課後や週末に、境港市の中で集い、学習する場を提供します。また、漁業等、地場産業の魅力や可能性を知り、地元を理解するきっかけをつくります。

○境中央公園との一体化と連続性

図書交流広場は境中央公園に面して1階に配置します。境中央公園を一部整備し、公園の景観を取り込んだ一体的な空間に様々な読書スペースを設置します。

○自衛隊・防災の関連資料の充実

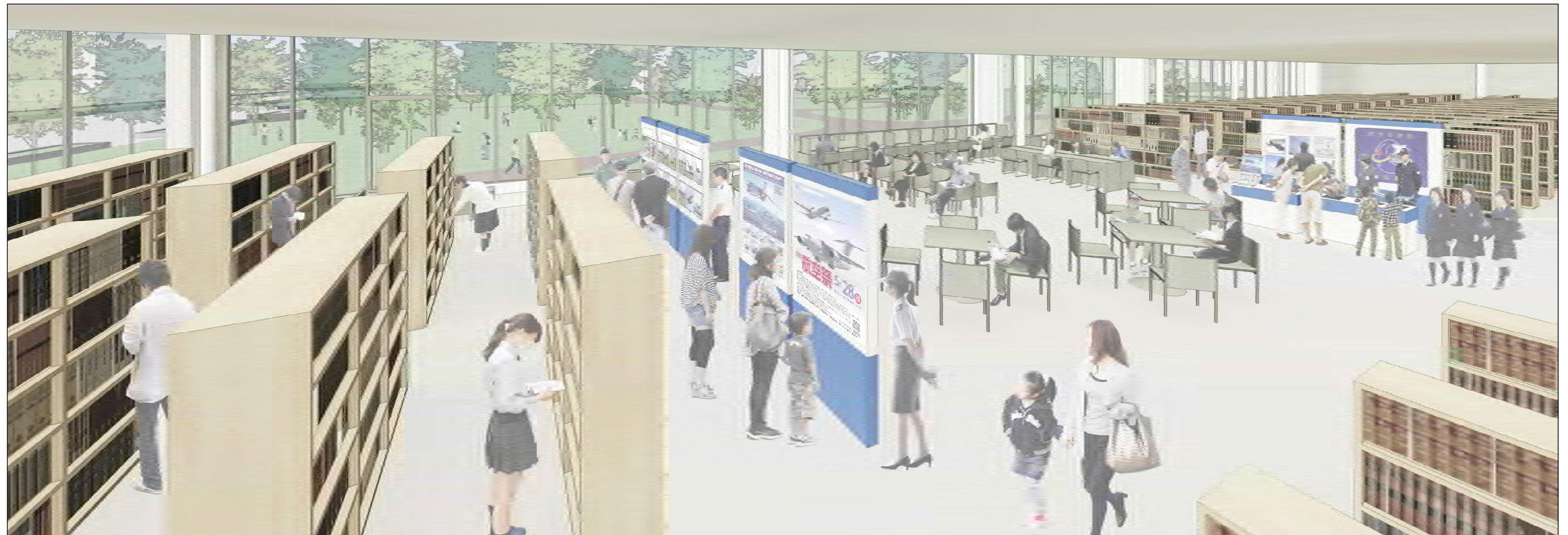
自衛隊・防災関連の図書コーナーを充実させ、災害等、様々な事態対応、日本の防衛、安全保障環境への取り組みという自衛隊の役割の正しい理解を促します。また、震災関連資料の展示はもちろん、自衛隊活動のパネル展示なども行います。

○境港の地域性を活かした企画展示

境港市を代表する作家である「水木しげる」に関するライブラリーを設置し、水木しげるロード、水木しげる記念館との連携による企画展示を行います。地元の人たちも、地元の魅力や可能性を発見・再発見する機会となり、外からの訪問者にとっては境港市について深く、広く理解することにつながる計画とします。

○賑わいのスペースと静寂のスペース

蔵書数は15万冊、うち開架書架10万冊、閉架書庫5万冊の規模を確保します。開架書架の配置にも空間的なレベル差を設け、市道元町中野線に面した東側に賑わいのある児童図書コーナーを設け、境中央公園側に静寂な読書できる空間をつくります。



図書交流広場のイメージ